



常設展示「歴史の旅へ」コーナー

CONTENTS

- EXHIBITION [東京企画展] the SAKAN
[海外展] フィンランド展
建築家×家具職人コラボレーション展
三木の道具と金物鷲
近代建築 ものづくりの挑戦
- EVENT 「技と心」講演会
- COLUMN 大工泣かせのテーブル
- SEMINAR 「技と心」セミナーのご案内

常設展示紹介 ー歴史の旅へー

歴史コーナーでは、道具の歴史により親しんでいただけるよう、五感で楽しめる工夫を随所に加えました。なかでも見どころは、鎌倉時代の松崎天神縁起絵巻（動く絵巻物）。パネルをタッチすると、描かれた職人たちが生き生きと動き出します。また、手に取れる大工の教科書「雛形本」、先史時代の石斧、古代の加工痕など、ハンズオン（触れる展示）が充実しました。旧館でも好評だった「ターニングポイント模型」には道具が添えられ、より臨場感のある内容にリニューアル。生まれ変わった歴史コーナーをお楽しみください。

東京企画展

the **SAKAN**

継承と革新

会期
2015年8月17日(月)
▼
2015年9月26日(土)

会場
Gallery A⁴
東京都江東区新砂1-1-1竹中工務店1F

開館時間 10:00~18:00
(最終日は17:00まで)

休館日 日曜・祝日

入場料 無料

主催 公益財団法人 竹中大工道具館
共催 公益財団法人 ギャラリーエークウッド

木とともに身近な素材である土。人類はどこでも土の建物をつくってきた歴史があります。日本では、大陸から学んだ技術をもとに「左官」という匠が生まれ、独自の進化を遂げました。その技は、類まれなほどの境地に到達し、やがて世界に向けてその美の創造力を発信するまでになりました。師に学び技を継承しながらもつねに革新的な進化を続ける。真の伝統の姿を今に維持する職人の世界をご紹介します。

本展覧会は、本年の東京展と平成28年秋の神戸展との2部構成となります。江戸前職人の世界から新進気鋭の達人までを紹介する東京展。左官技術の礎である京の歴史と道具から最新の泥団子まで、幅広く土の世界をお楽しみ下さい。

京に学ぶ

「左官」という職名は京都で定着しました。高度に発達した京壁の技が日本の左官技術の原点となっています。その創世記となった江戸時代の史料や道具、明治に発展した技術を道具の視点から紹介します。新たに見つかった江戸時代末期の鏝は、これまでの左官史を書き換えます。

千の鏝

左官がつかう鏝の種類は千におよぶといわれます。なぜそまでの種類が必要だったのか。そのほとんどは数寄屋のためのものでした。真行草を表現する繊細な肌理や角の丸みの備えを解説します。左官仕様のすべてを踏襲した久住章の道具。自ら分析した鏝の形とその意味を映像を交えながら展示します。

美を創造する達人

土という素材を自在に操り、五感に訴える美の世界を創造する技。久住有生による土の造形の世界を展開します。

東京の鏝

関東の土には兼定が合う。戦前から昭和30年代にかけてつくられた東京鏝の名作をご紹介します。兼定の鏝をこよなく愛した名匠榎本新吉。常に技と道具の探究に余念をもち、後進に伝える。生粋の江戸前気質は多くの人々に親しまれていました。榎本氏の道具に秘められた職人の創意に迫ります。

関連イベント

オープニングイベント「美を創る匠の技」／久住有生(左官職人)

メインの展示となる土の造形は開催初日に完成します。版築で固めた土の粒子が崩壊寸前の状態で維持される様は、太古から続く技術を京壁伝統の美意識で現代の解釈にとらえなおし、二次元の壁の世界を空間に広げようとする野心的な試みです。その姿は、建築の境界を超えてアート領域にまで到達しようとしています。その完成の瞬間を公開します。

日時 8月17日(月)13時~(終了時間未定)

場所 ギャラリーエークウッド 展示会場(入場無料、申込不要)

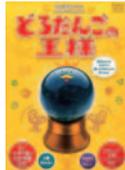


関連イベント

どろだんごをつくろう!

講師:鈴木真由美(造形作家)

子どもの頃、一度はつくったどろだんご。今では子どもが土に触れる機会も少なくなりました。学研から発売になった「どろだんごの王様」の考案者鈴木真由美さんは、本展で紹介する榎本新吉氏のお弟子さんです。師匠直伝の技を進化させ、光るどろだんごを芯からつくりまします。考案者が指導する体験教室です。



「専用器具で作る
まんまるピカピカ!
どろだんごの王様」
価格:1,458円(税込)
著者/編集:学研・科学編集室
出版社:学研マーケティング
ISBNコード: 9784057504988

日時 8月22日(土) 13:00~15:00

場所 竹中工務店東京本店1F

参加費 無料(ただしGakken科学と学習「どろだんごの王様」をご購入の上ご持参下さい。当日、会場でもお買い求め頂けます。)

定員 30名(要申込み)

※中学生以下は保護者同伴をお願いします。

申込方法(受付期間:7月1日~7月30日)

◎ウェブメール 企画展ページ (http://www.douguan.jp/special_exhibition/sakan) をご覧ください。◎往復ハガキ/[往信用裏面] ①イベント名②参加者氏名(フリガナ)③郵便番号・住所④電話番号⑤年齢/[返信用表面] 宛先に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入。裏面は通知に使用するので未記入のこと。/[申込先] 〒651-0056神戸市中央区熊内町7-5-1竹中大工道具館イベント係

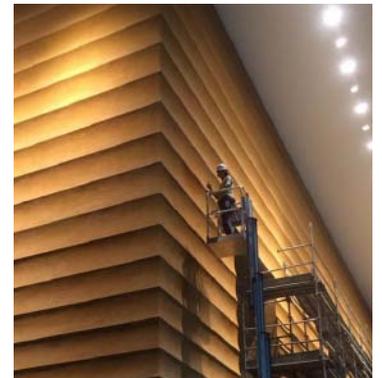
講演会「現代建築と土 —超高層オフィスビルにグリーンを—」 講師:伊東豊雄

シンガポールのラッフルズプレイスに伊東豊雄建築設計事務所設計、竹中工務店施工・監理の超高層オフィスビル「キャピタグリーン」が完成しました。「都市開発で緑を減らすのではなく、逆に緑を増やそうという発想」(伊東氏)が生かされた、自然と建築の融合を具現化したデザインです。エントランス大壁を左官職人久住有生氏が担当しました。本講演会では、講師に建築家伊東豊雄氏と左官久住有生氏をお招きし、プロジェクトにまつわる土の造形についてお話を伺います。

日時 9月11日(金) 18:30~20:00

場所 竹中工務店東京本店2F ABホール

定員 先着200名(申込不要・入場無料)



EXHIBITION 海外特別展 北欧フィンランドの3会場で展覧会を開催いたします。

「木と伝統」展

プロプー・ギャラリー [ラハティ]

6月8日(月)~8月31日(月)

ヘルシンキから北方100kmのラハティ市のギャラリーで日本の大工道具と継手を紹介します。

プーはフィンランド語で木。プロプーは「プロの木」という意味です。旧マッチ工場をリフォームした工房内のギャラリーで、地元木工家の活動を世界に発信する施設です。



「数寄屋—Japanese Teahouse—」展

フィンランド建築博物館 [ヘルシンキ]

9月1日(火)~11月15日(日)

首都ヘルシンキでフィンランドの建築と建築家の史料を展示する博物館で数寄屋建築と大工の技を紹介します。茶室の構造模型や材料、大工道具と継手などを展示し、数寄屋に関わる職人の世界を展開します。

※日本人大工による実演イベントを初日に行います。



「堂宮大工—Tradition in Japanese Wood Construction—」展

国立クラフト美術館 [ユヴァスキュラ]

9月17日(木)~12月5日(土)

フィンランド・中央スオミ県の湖の畔を中心に広がる都市ユヴァスキュラ。フィンランドの手工芸品を展示するクラフト美術館で、日本の手道具の世界を紹介します。179点に及ぶ道具や継手模型、堂宮大工の世界を展示し、エバレット・ブラウン氏の写真展を併設します。

※実演イベントを11月21日に開催します。



EXHIBITION

中村好文×横山浩司・奥田忠彦・金澤知之 建築家×家具職人 コラボレーション展



葉山の家 写真:雨宮秀也

日本では建築家と家具職人が対等の立場で協働することは珍しいことだと思います。建築家・中村好文と家具職人の横山浩司、奥田忠彦、金澤知之は長年にわたって、そうした「二人三脚」に似た協働製作を通じて、数多くの住宅用の家具を作り続けてきました。こうして生まれた家具のほとんどは、中村の設計する住宅に欠かせない「定番家具」となりました。この展覧会では、その「定番家具」の数々を展示するとともに、3人の職人たちのオリジナル作品や愛用の道具などを展示いたします。建築家と家具職人の絶妙な役割分担と、そのコラボレーションの成果と妙味をぜひご覧ください。

会期 2015年9月19日(土)～10月25日(日) 主催 レミングハウス
会場 竹中大工道具館1Fホール 共催 公益財団法人 竹中大工道具館

プロフィール

中村好文 (建築家)

1948年千葉県生まれ。武蔵野美術大学建築科卒業。都立品川職業訓練校木工科で木工を学んだ後、吉村順三の下で家具デザインの助手をつとめる。1981年レミングハウス設立。以来、ライフワークの住宅設計と家具デザインに明け暮れて現在に至る。

横山浩司 (家具職人)

1952年宮崎市生まれ。(株)松本民芸家具に入社、職人として家具製作に従事する。1981年家具工房楓林舎として独立。1984年より中村好文デザインの家具製作を担当。1997年大町市に住居と工房を移転。家具製作の技術を生かし、ラセン階段などの曲線の手すり製作にも意欲的に挑戦している。

奥田忠彦 (家具職人)

1956年大阪生まれ。大阪市立工芸高校木材工芸科に入学し木工を始める。大阪の別注家具屋でフラッシュ箱物家具、岐阜・北海道での脚物家具(シェーカー家具)作りを経て、1990年長野県安曇野池田町で独立。一昨年、工房を札幌に移し特注家具の製作に取り組む。

金澤知之 (家具職人)

1953年東京生まれ。日本デザイナー学院でデザインを学んだ後、(株)松本民芸家具入社。独学で椅子の座編み、木工旋盤を習得。松本技術専門学校で溶接とストーブ製作を学んだ後、1990年より金澤園工として独立し、木工旋盤、座編み、溶接の異なる技術を生かした製作活動を開始。長野県安曇野市在住。

関連イベント

※イベントの内容・日時等は変更になる可能性があります。最新情報は当館ホームページにてご確認ください。

技と心セミナー

建築家と家具職人、 コラボレーションの舞台裏を語る

日時 9月19日(土) 13:30～15:00(13:00会場)
場所 神戸芸術センター 会議室
講師 中村好文、横山浩司、奥田忠彦、金澤知之
定員 120名(要申込み)

※申込方法・詳細は8頁をご覧ください。

ワークショップ

①ミルキングストウールの製作

日時 9月26日(土) 9:30～16:30
場所 当館B2F木工室
講師 横山浩司、奥田忠彦、中村好文
定員 27名(要申込み)
参加費 5,000円(材料費、入館料込み)

②ペーパーコードの座編み

日時 9月27日(日) 9:30～16:30
場所 当館B2F木工室
講師 金澤知之、中村好文
定員 12名(要申込み)
参加費 10,000円(材料費、入館料込み)

ワークショップ申込方法(申込締切:8月26日)

◎ウェブメール/当館ホームページ(<http://dougukan.jp>)内イベントページより◎往復ハガキ(ハガキ1枚につき1名様まで)/[往信用裏面] ①イベント名②参加者氏名(フリガナ)③郵便番号・住所④電話番号⑤年齢/[返信用表面]宛先に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入。裏面は未記入のこと。[申込先] 〒651-0056神戸市中央区熊内町7-5-1竹中大工道具館イベント係

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。※参加案内ハガキ・メールは締切日以降に発送します。※締切日以降は電話にてお問い合わせください。

EXHIBITION

三木の道具と金物鷲

鋸や包丁など約3,300本の三木金物を刺してつくられたオブジェ「金物鷲」を中心に、のこぎりのみ鋸、かんなこて鑿、鉋、鑊、小刀という伝統的工芸品に指定された5品目の製造工程等を紹介し、三木金物の魅力を伝えます。

会期 2015年7月7日(火)～
7月20日(月・祝)

主催 三木工業協同組合青年部
金物鷲保存会

会場 竹中大工道具館1Fホール

入場料 無料(常設展見学は要入館料)

※展示・イベントの詳細については三木工業協同組合青年部事務局(0794-82-3154)へお問い合わせ下さい。



関連イベント

①金物鷲公開組立

日時 7月5日(日)9:30～16:30
場所 当館1Fホール

②鍛冶屋体験

日時 7月12日(日)10:00～15:30※荒天中止
場所 当館1Fテラス
定員 先着10名
参加費 無料

③鑊絵体験

日時 7月12日(日)10:00～12:00、
13:00～15:30
場所 当館B2F木工室
定員 先着40名
参加費 無料(別途要入館料)

※②③はいずれも開催時間内のお好きな時間(所要時間30分程度)となります。

COLUMN

大工泣かせのテーブル

竹中大工道具館の名栗仕上げの自動扉を入ると、開放感あふれるガラス張りの多目的ホールとなっています。ここでは木作家たちがつくった木のチェアが置かれ、窓の外に広がる六甲山の雄大な山並みを楽しみながらくつろいでいただけるスペースとなっています。なかでも目を引くのが、チェアがセットされた珍しい杳目の大きなテーブルです。この天板にはモアビという木が使われています。

モアビは光沢があり、接着や塗装も容易なことから、ピアノの外装材やハープの側板としても珍重されています。色合いが均質で虫や摩耗に強く、耐久性にも優

れることから、高級なフローリング等の内装材として使用されます。一般的にモアビは杳目の目立つ樹種ではありませんが、稀にこの天板のような珍しい杳や複雑な縞模様(波浪杳はろうもく)の出る場合があります。仕上がりは非常に美しいものの、堅く加工が極めて困難な大工泣かせの木で、この天板を削った大工によると、鉋を一ひきし終わらないうちに刃が切れ止んでしまうため、一ひきしては研いでというのを途方もなく繰り返し、艶が出るまで磨き上げていったそうです。



テーブル天板
サイズ:L4,220×W1,125～875×D47mm
樹種:モアビ(アカテツ科)
産地:カメルーン、コンゴ、ザイール





三井本館解体工事現場。技術者と職人が記念撮影（大正15年、三井文庫蔵）

近代建築 ものづくりの挑戦

明治、大正、昭和。日本が大きく変わった時代。建築も西洋からもたらされる新しい技術でつくることが求められました。職人や技術者たちはそれに果敢に挑戦し、短期間のうちに習得して、近代化を成功させます。その過程でどのような技術革新があり、それがどのように建築を変えていったのでしょうか。建設会社や大学等に残された貴重な資料を通して、その歩みを振り返ります。

展示構成

第1章 建築の文明開化

第2章 歴史主義との格闘

第3章 鉄とコンクリート

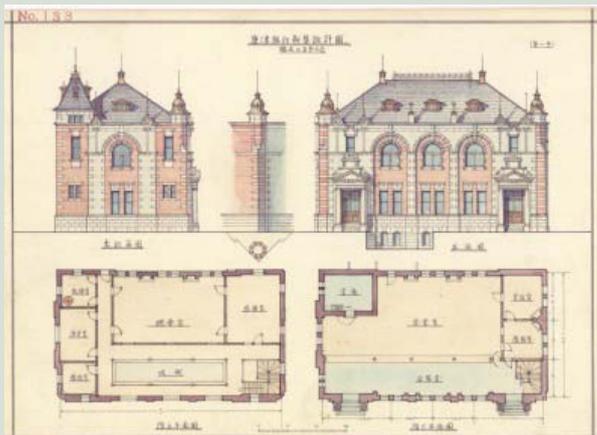
※本展覧会は神戸会場終了後、名古屋、東京を巡回予定です。

会 期 2015年10月31日 [土] ~12月27日 [日]

会 場 竹中大工道具館1Fホール



為替バンク三井組柱頭 (明治5年、清水建設蔵)



清水組彩色図 (明治~大正、清水建設蔵)

セミナー

建設会社設計部がきずいた世界

日時 2015年12月5日 (土) 13:30~15:00

講師 石田潤一郎 (京都工芸繊維大学教授)

※申込方法・詳細は8頁をご覧ください。

見学会

神戸塩屋の近代建築を巡る

日時 2015年11月28日 (土) 13:00~16:00

見学先 ジェームス邸・旧後藤邸・
旧グッゲンハイム邸 (予定)

定員 30名 (要申込み) 参加費:1500円

※申込方法・詳細は、展覧会チラシおよびホームページにてお知らせいたします。

関連イベント

※イベントの内容・日時等は変更になる可能性があります。最新情報は当館ホームページにてご確認ください。

「技と心」講演会

ものづくりの近代建築史

近代建築というと、建築家の活躍やさまざまな様式・表現の移り変わりなどに目を奪われがちですが、それを支えていたのがさまざまな技術です。材料・構造・施工法などの革新が、建築にどのような変革をもたらしたのか。今年の講演会は建築学者の内田祥哉氏と建築史家の藤森照信氏をお招きし、近代建築をものづくりという視点から語っていただきます。

日時 2015年11月8日 (日) 13:00~15:30

場所 ラッセホール大会場 (神戸市中央区中山手通4-10-8、
神戸市営地下鉄「県庁前駅」より徒歩5分)

講師 内田祥哉 (東京大学名誉教授)

藤森照信 (東京大学名誉教授)

定員 当日先着200名 (無料・申込不要)

講師プロフィール

内田祥哉 (うちだよしちか)

1925年生まれ。東京大学名誉教授。専門は建築構法。著書に『プレファブー近代建築の主役』、『建築生産のオープンシステム』、『日本の伝統建築の構法』、『建築家の多様』ほか。設計作品に佐賀県立博物館、佐賀県立九州陶磁文化館などがある。



藤森照信 (ふじもりてるのぶ)

1946年生まれ。東京大学名誉教授。専門は近代建築史・都市史。著書に『明治の東京計画』、『日本の近代建築』(上下)、『天下無双の建築学入門』ほか。近年は建築家としても活躍しており、設計作品に神長官守矢史料館、高過庵などがある。



SEMINAR 「技と心」セミナーのご案内

大工道具と建築技術の専門家ならびに当館スタッフが、最新の研究成果や知見をご紹介するセミナーです。

参加費 無料(入館料は別途必要)

開催時間 13:30~15:00(13:00開場)

会場 [71][72] 神戸芸術センター会議室
[73] 当館1Fホール

セミナー参加申込方法

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
※受講案内ハガキ・メールは締切日以降に発送します。

◎ホームページ(1フォームにつき2名様まで)

当館ウェブサイト(<http://dougukan.jp>) セミナーページの申込みフォームをご利用ください。

◎往復ハガキ(ハガキ1枚につき4名様まで)

[往信用裏面]

①セミナー番号 ②お名前(フリガナ) 参加者全員分

③郵便番号・住所 ④電話番号

[返信用表面]

・宛先に申込者の郵便番号・住所・氏名を記入。

・裏面は未記入のこと。

[申込先]

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1

竹中大工道具館「技と心」セミナー係

[71] 2015年9月19日(土)(締切2015年8月28日)

建築家と家具職人、コラボレーションの舞台裏を語る

講師:中村好文(建築家)、横山浩司、奥田忠彦、金澤知之(いずれも家具職人) / 定員:120名

建築家と3人の家具職人が、長年の協働作業で切り開いてきた家具の可能性や今後の夢を、数々の愉快的エピソードと苦労話を交えながら、本音で語り合います。真剣に意見交換し合う協働製作の様子を伝える貴重な映像も見ものです。

[72] 2015年12月5日(土)(締切2015年11月13日)

建設会社設計部が気づいた世界

講師:石田潤一郎(京都工芸繊維大学教授) / 定員:100名

近代的建設業が成長して来なかで、企業内に設計を専門的に担当する部署が形成されます。設計と施工を一貫して遂行する体制は、クライアントとの結びつきにおいても、建設技術への態度においても設計専門組織とは異なる建築世界を広げていきました。その足跡をたどります。

[73] 2016年1月16日(土)(締切2015年12月25日)

江戸時代の復古建築

講師:加藤悠希(当館研究員) / 定員:80名

江戸時代には伊勢神宮や京都御所などで、理想とする過去の姿に立ち返るべく復古的な造営が行われました。それでは当時の人々がめざした過去の姿とはどのようなものだったのでしょうか。今回のセミナーでは、復古のための考証、実現するための努力、そして実現したものの姿を検討して、江戸時代の人々が建築に込めた思いを紐解きます。

EVENT イベントのご案内

木工室では、子どもから大人まで楽しめる体験型のイベントやワークショップを定期的開催しています。

そのほかのイベントのラインナップや申込方法についてはイベントパンフレットまたは当館ウェブサイトをご覧ください。

夏休み子ども体験教室

8月23日(日)

①9:30~12:00、②13:30~16:00

定員:各回とも小学4年生~中学生とその保護者15組(要申込み)

刃物研ぎ教室

9月13日(日)

10:00~15:00

定員:大人10名(要申込み)

クリスマスワークショップ

12月6日(日)

13:30~16:00

定員:小学4年生~中学生とその保護者15組(要申込み)

ACCESS 来館のご案内

開館時間 9:30~16:30(入場は16:00まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始(12月29日~1月3日)

入館料

| | 個人 | 団体 |
|---------|------|------|
| 一般 | 500円 | 400円 |
| 大・高生 | 300円 | 250円 |
| 中学生以下 | 無料 | |
| 65歳以上の方 | 200円 | |

※団体は20名以上 ※その他各種割引あり

アクセス

▷山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩3分

▷市営地下鉄「新神戸駅」北出口2より徒歩3分

▷シティーループ「12新神戸駅前(2F)」下車徒歩3分

▷神戸市バス2・18系統「熊内6丁目」下車徒歩2分

駐車場(無料)[普通車5台、障がい者用1台]

連絡先

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1

TEL 078-242-0216 FAX 078-241-4713

URL <http://dougukan.jp>



※旧館は2014年5月18日より閉館しております

※本内容は変更になる場合があります。最新情報は、ウェブサイトにてご確認ください。

本誌の無断転写・転載・複製は禁じます。

©2015 Takenaka Carpentry Tools Museum

竹中大工道具館NEWS 33号

2015年7月1日発行

編集・発行:公益財団法人竹中大工道具館

印刷:神戸新聞総合印刷

TAKENAKA
CARPENTRY
TOOLS
MUSEUM



公益財団法人 竹中大工道具館

